

報道関係者各位

令和5年9月29日

第2回持続可能な地域医療を考える会の概要について

令和5年8月8日に開催した「持続可能な地域医療を考える会」の概要をお知らせします。

1. 第2回持続可能な地域医療を考える会の概要

日時 令和5年8月8日（火）午後7時30分～午後9時20分

場所 舞鶴市役所 中会議室

参加者 舞鶴市長、市内公的4病院長ほか

内容 看護人材の確保をテーマに、各病院から看護部長も同席のもと、意見交換を実施。新たな人材を確保するため、看護学生の実習の積極的な受け入れはもとより、医療職に関心ある中高生を増やしていくため、看護職そのものの魅力を伝えるとともに、病院や地域そのものの魅力を高めていくことに加え、現在従事している看護人材が長く働き続けられる視点も重要であり、やりがいを感じながら、働きやすい労働・職場環境を整備していく必要性も確認された。（参考：考える会概要資料・会議要録）

2. 今後の予定

11月 第3回持続可能な地域医療を考える会【非公開】
テーマ「救急医療」について（予定）



第2回持続可能な地域医療を考える会の概要（令和5年8月8日）

1. 協議事項

「看護人材の確保について」

2. 参加者

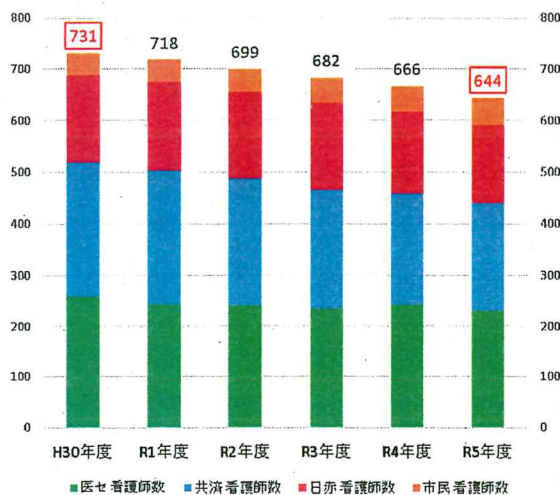
舞鶴市長		鴨田	秋津
舞鶴医療センター 院長		法里	高
舞鶴共済病院 病院長		沖原	宏治
舞鶴赤十字病院 院長		片山	義敬
舞鶴市民病院 病院長		井上	重洋

ほか各機関事務方、病院看護部長
※舞鶴医師会会長は急遽都合により欠席

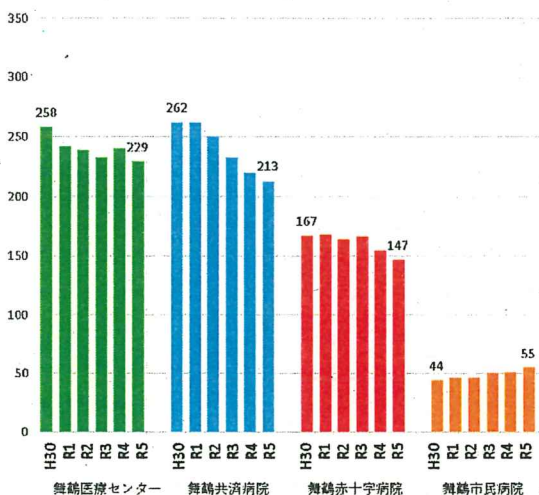
3. 概要

- 看護人材の確保をテーマに、各病院から看護部長も同席のもと、意見交換を実施。
- いずれの病院においても、看護人材の確保には苦慮しており、特に夜勤対応できる看護師不足が喫緊の課題として挙げられた。
- 新たな人材を確保するため、看護学生の実習の積極的な受け入れはもとより、医療職に関心ある中高生を増やしていくため、看護職そのものの魅力を伝えるとともに、病院や地域そのものの魅力を高めていくことに加え、現在従事している看護人材が長く働き続けられる視点も重要であり、やりがいを感じながら、働きやすい労働・職場環境を整備していく必要性も確認された。
- 看護職に留まらず医療提供体制を支える人材の安定的確保を図るためには、個々の病院で取り組む対策だけを考えるのではなく、統合や再編など、長期的視点に立った課題解決策を検討するべきとの意見も寄せられた。

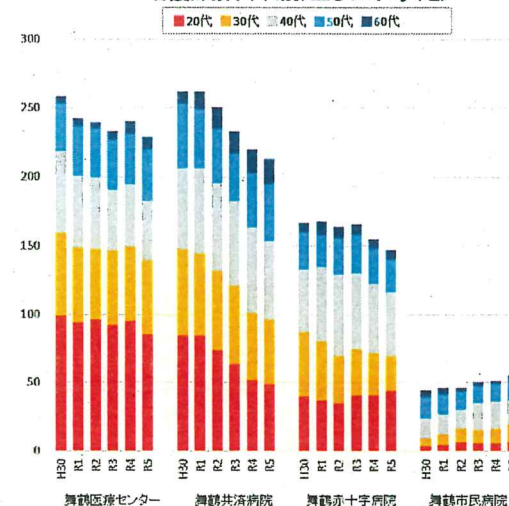
看護師数



看護師数（病院別）



看護師数（年代別）並びに平均年齢



第2回持続可能な地域医療を考える会 要録

【日 時】令和5年8月8日(火) 19:30~21:20

【場 所】市役所別館5階 中会議室

【出席者】舞鶴医療センター：法里院長、矢野事務部長、森重看護部長
舞鶴共済病院：沖原病院長、福田事務部長、山口看護部長
舞鶴赤十字病院：片山院長、西田事務部長、奥野看護部長
市立舞鶴市民病院：井上病院長、坂根管理部長、根本看護部長
舞鶴医師会：藤崎事務長
舞鶴市：鴨田市長、福田参事、馬場健康・子ども部長
事務局：霜山室長、高嶋課長、谷田係長、水嶋主査、東山

【内 容】

- 1 開会
- 2 市長挨拶

平素は、医療従事者の皆様には24時間365日、献身的なご努力により、本市の地域医療をお支えいただいていることに、感謝を申し上げます。

第1回の考える会を5月31日に開催させていただいて以降、市民の皆様やメディア、市議会等から多くの反響があり、あらためて地域医療に対する市民の皆様の関心が非常に高く、また、この会に求められている重要性も非常に高いと認識したところです。

本日のテーマは、「看護人材の確保」であります。当然のことながら、病院は医師だけでなく、看護師や技師さんなど多岐にわたる職種の方々によって構成されており、どの立場の方も欠かすことはできません。その中で近年、看護師不足が大きな課題となっており、公的病院に限らず、開業医でも人材確保に苦勞されているとお聞きしています。

市内には、看護師を養成する学校が2校所在しているが、いずれも近年、入学者数が定員に至らず、学生確保に苦慮されているという状況であります。

そのような中、舞鶴医療センター附属看護学校については、令和6年度の入学生をもって募集を停止され、令和9年3月をもって閉校となります。毎年10数名を採用されてきた医療センターにとっても影響は大きいと存じますし、大学志向がさらに加速するのではないかと予想される場所でもあります。

また、日星高校についても、今後、学校としての対応をどうするべきかということについて検討を重ねられているという現状であります。

人員確保については、各病院で努力をされることが原則とは思っているものの、舞鶴市内の看護師不足の解消に向けて、市の立場から支援できることはないのか、あるいはあるのか、そういったことも、今日の議論を参考に検討していきたいと考

えております。

今日は、各病院の看護部長の皆様もご参加いただいておりますので、ぜひとも忌憚のないご意見を交わしていただき、有意義な時間になることを申し上げます。開会の挨拶とさせていただきます。

今日は、よろしく申し上げます。

3 報告事項

- ・救急医療部会（7月4日開催）
- ・中高生医療体験イベント「ミッションインホスピタル5」（8月6日開催）
- ・衛星電話通信テスト（7月31日、8月4日）
- ・秋のワクチン集団接種に係る協力依頼

4. 概要

第2回持続可能な地域医療を考える会については、看護人材の確保をテーマに、各病院から看護部長も出席のもと意見交換を行った。

いずれの病院においても、看護人材の確保には苦慮しており、特に夜勤対応できる看護師不足が喫緊の課題として挙げられた。

新たな人材を確保するため、看護学生の実習の積極的な受け入れはもとより、医療職に関心ある中高生を増やしていくため、看護職そのものの魅力を伝えるとともに、病院や地域そのものの魅力を高めていくことに加えて、現在従事している看護人材が長く働き続けられる視点も重要であり、やりがいを感じながら、働きやすい労働・職場環境を整備していく必要性も確認された。

最後に、看護職に留まらず医療提供体制を支える人材の安定的確保を図るためには、個々の病院で取り組む対策だけを考えるのではなく、統合や再編など、長期的視点に立った課題解決策を検討すべきとの意見も寄せられた。

5. 主な意見（要旨）

- ・今のままでは、看護人材を確保できない。各病院ともに看護師の確保には苦慮しており、特に夜間勤務できる看護師が不足している。病院として機能するためには24時間365日の夜勤が必要になるので、フレックスでも夜勤当直に入ってもらえるようにしたい。
- ・看護師への負担が大きくなっており、何もかもやっている印象。ワクチン接種や保健業務は潜在看護師に受けていただくなど、少しでも本来業務である医療に専念できる支援・配慮も必要と考える。

- ・ 30歳代女性職員は、出産・育児休暇により割合的に少なく、休暇から復帰しても、夜間勤務できる職員はほとんどおらず、中には家庭を優先して離職を選ぶケースも見受けられる。子育て世代が夜勤もしながら働き続けられる支援が必要。病院には夜間も可能な保育所を設けているが、子どもを預けてまで働きたくない、子どもにつらい思いをさせてまで働きたくないと考える看護師も増えてきている。
- ・ 依然として家事や育児、介護は女性の役割と意識が根付いており、そのようなライフステージにある女性看護職にとって、家庭と仕事との両立に苦労している。誰もが安心して働き続けられる啓発活動に取り組むことも大切。
- ・ 職員採用に向け、近隣の学校訪問や実習等の受入など、工夫を重ねているが、将来の看護人材を育成していくため、中高生に対して看護職のやりがいや魅力を伝えることや、病院や地域そのものの魅力を高めていくことも大切な視点である。
- ・ 奨学金制度についても人材確保には有効であり、近隣市町の病院で実施されている制度も踏まえ、地域として魅力的な制度を確立したい。
- ・ 新たな人材を確保することはもちろんのこと、現在、従事している看護師が長く働き続けられる定着の視点も重要であり、子育てしながらでも、生き生きと働くことができる職場環境の充実や、勤務時間に制限のある職員や潜在看護師も活躍できる柔軟な雇用形態、夜勤も含めたフルタイムで働く看護職の心身における負担軽減策についても一体的に検討する必要がある。
- ・ 看護師不足は、全国的な問題で、舞鶴だけで解決できるものではないが、そこをどうすればいいのか、柔軟な考え方で検討することも必要。
- ・ 各病院では現在の病院経営の状況を踏まえて人の確保をしなければならない。
- ・ 長いスパンで考えると、やはり人の確保は難しい。人材を含めた地域の医療資源が非効率にならないように、病院の統合化や経営の一体化といった仕組みを検討することも必要である。

6. 次回テーマ

第3回テーマは「救急医療」について
(救急医療部会メンバーの同席も想定)

以上